

次号 特集

抗血小板薬、抗凝固薬のすべて

今回は抗血小板薬、抗凝固薬という薬剤に焦点を絞って、特集を組みます。抗血小板薬ではプラスグレルやチカグレロル、抗凝固薬ではDOAC (direct oral anticoagulants) が複数登場し、国内外のガイドライン、現場の診療内容が大きく変化を遂げています。そのような時代の変化のなかで、いま我々はどう診療すべきなのかを読者の皆様にわかりやすくお伝えできるように、国内外の新進気鋭の執筆者陣にご協力をお願いしております。単に最新の知見をお届けするというのではなく、アスピリンやワルファリンといった古典的な薬剤が歩んできた「過去」、薬剤の選択肢が増えるなかでどのように血栓症と出血のリスクを天秤にかけて適切な薬剤選択をするのかという実診療の「今」、そして現在進行形で行われている臨床試験から透けて見える抗血栓治療の「未来」、そのすべてを学ぶことができるように構成を工夫しています。また、最新の論文や国内外のガイドラインの知見をふまえて、どうやって日本型 Hospitalist として Evidence Based Medicine を実践していくのかという落としどころを考えるための情報を提供する、いつもの Hospitalist 誌の良さも踏襲したいと思います。これを読めば「抗血小板薬、抗凝固薬のすべて」を知ることができ、読者の頭のなかでつかえていたわだかまりを取り除く処方になる、そんな珠玉の1冊を目指します。

1. 血小板の機能と抗血小板薬の作用機序
2. 抗血小板薬をいつどうやって使うのか
【コラム①】アスピリン～その歴史と進化を探る～
【コラム②】新規抗血小板薬の最新エビデンス
3. 凝固因子の機能と抗凝固薬の作用機序
4. 抗凝固薬をいつどうやって使うのか
【コラム③】ワルファリン～より深い歴史と知識を追い求めて～
【コラム④】DOACの最新エビデンス
【コラム⑤】DOAC時代のヘパリン
～それでもまだヘパリン持続静注とPTTの頻回測定に価値はあるのか～
【コラム⑥】NVAfに対する抗凝固薬にまつわるスコアリングとそのエビデンス
【コラム⑦】入院中のVTE予防戦略～DOACはヘパリン皮下注射の座を奪うのか～
5. 血小板機能異常、凝固異常時に使用する検査とその解釈
6. 抗血小板薬、抗凝固薬の投与をいつ控えるべきか
7. 周術期、侵襲的処置時の抗血小板薬、抗凝固薬のマネジメント
8. double therapy, triple therapy
9. 高齢者に対する抗血小板薬、抗凝固薬の使い方
10. 妊娠・授乳婦に対する抗血小板薬、抗凝固薬の使い方
11. 抗血小板薬、抗凝固薬内服中に生じた出血への対応
12. 抗血小板薬、抗凝固薬投与中の消化管出血予防

※誌面の都合により、内容が変わることがあります。

Vol.1 (2013年)

- No.1 ホスピタリスト宣言
- No.2 感染症

Vol.2 (2014年)

- No.1 腎疾患
- No.2 膠原病
- No.3 消化管疾患
- No.4 緩和ケア

Vol.3 (2015年)

- No.1 呼吸器疾患1
- No.2 外来における予防医療
- No.3 循環器疾患1
- No.4 血液疾患

Vol.4 (2016年)

- No.1 代謝内分泌
- No.2 周術期マネジメント
- No.3 腫瘍
- No.4 他科の知識1

Vol.5 (2017年)

- No.1 神経内科
- No.2 呼吸器疾患2
- No.3 感染症2
- No.4 老年科

Vol.6 (2018年)

- No.1 腎疾患2
- No.2 糖尿病
- No.3 肝胆臓
- No.4 心不全

Vol.7 (2019年)

- No.1 外来マネジメント
- No.2 総合内科のための集中治療
- No.3 抗血小板薬、抗凝固薬のすべて
- No.4 内科エマージェンシー

Vol.8 (2020年)

- No.1 アレルギー

「『やさしい日本語』を用いた外国人診療」(Web 医事新報 No.4961) という記事を読みました。日本にいる外国人には英語を母語にしていない人も多く、医療通訳者だけではなく、例えば「漢語を和語に」「擬音語や擬態語は避ける」など現場レベルでの「やさしい日本語」に取り組み、円滑な外国人診療、背景の違いを超えた情報伝達に役立てましょう、という提言でした。執筆/編集においても、言葉の選び方や文章の区切り方で印象が異なってくることは当然ながらよくあることで、わかりやすい表現は大事なテーマになります。答えのないなか、そういった検証を毎回執筆の先生方のなかで繰り返していただいています。今回の特集は、集中治療の各分野のエキスパートの先生方にお願ひし、使い慣れている言葉を見直し、あえて論点を絞ってやさしく解説していただきました。これが「はじめに」にあるような歴史を継ぐ記録の1つになっていくかもしれないと思うと、背筋が伸びます。

● 広告一覧

JHospitalist Network... 202	日本医書出版協会... 265
医学書院... 414, 415	日本医事新報社... 306
南山堂... 269	羊土社... 318

Vol.7 No.2 2019年6月1日発行 [年4回 (3, 6, 9, 12月1日) 発行]

Hospitalist

(1部) 定価: 本体4,600円+税
2019年年間購読料: 19,008円 (4冊, 税込, 送料弊社負担)

ISBN 978-4-8157-0079-9

発行者 金子 浩平

発行所 株式会社 メディカル・サイエンス・インターナショナル
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36
電話: 編集部 03-5804-6056 FAX: 編集部 03-5804-6054
販売部 03-5804-6051 販売部 03-5804-6055
URL: <http://www.medsico.jp> Eメール: hospitalist@medsi.co.jp
振替: 東京 7-28572

印刷所 横山印刷株式会社 電話03-3622-6161
広告取扱 メディカルブレーション 電話03-3814-5980
日本医学広告社 電話03-5226-2791
文京メディカル 電話03-3817-8036
福田商店広告部 電話06-6231-2773



9784815700799

本誌の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権 (送信可能化権を含む) は (株) メディカル・サイエンス・インターナショナルが保有します。本書を無断で複製する行為 (複写, スキャン, デジタルデータ化など) は, 「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学, 病院, 診療所, 企業などにおいて, 業務上使用する目的 (診療, 研究活動を含む) で上記の行為を行うことは, その使用範囲が内部的であっても, 私的使用には該当せず, 違法です。また私的使用に該当する場合であっても, 代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

【JCOPY】<出版者著作権管理機構 委託出版物> 本書の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は, そのつど事前に出版者著作権管理機構 (電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。